

平成23年6月29日

国際開発工学科の教育ポリシー

<国際開発工学とは>

国際開発工学とは、既存の工学系分野における専門性に加え、国際開発に関する幅広い知識を融合することで、一国、一地域では容易に対応できない地球規模の影響を及ぼす諸問題を、持続的発展を視野に入れながら科学技術により解決することを目指し、工学系分野に加え、経済・政治・環境・社会科学分野を包括した総合工学です。

人材育成の目的 (学科 HP, 学習案内で公表予定)

国際開発工学科では、国際化した社会の中で地球規模に影響を及ぼす諸問題を、持続的発展を視野に入れながら科学技術により解決することを目指した学問である国際開発工学の基礎的な学力の涵養を目標としています。加えて、問題解決力、国際的なコミュニケーション力など、国際開発工学に関わる基礎能力を備えた、国際的活躍が期待できるポテンシャルの高いグローバルエンジニアの育成を目指しています。

入学者に求める能力と適性 (学科 HP で公表予定)

本学科では、次のような素養をもつ人材を求めます。

- ・理数系の分野を中心として幅広い学問に関して十分な基礎学力を有し、自分の考えたことを論理的かつ明快に説明できる基礎的能力を有すること
- ・国際社会が抱える問題や地域社会の問題に対する興味、またそれを解決しようとする意思を持ち、そのための学問を積極的に学ぶ意欲を有すること

修得する能力 (学科 HP, 学習案内で公表予定)

本学科では、次のような能力を修得します。

1. 工学基礎の学習とおした、全ての工学分野に共通する普遍的な科学・技術の概念と技術者倫理の本質的理解
2. 国際開発工学および、化学工学・機械工学・電気情報工学・土木工学などの専門基礎力
3. 既存の学問分野にとらわれない社会科学も含めた問題解決に必要な総合力の基礎
4. 科学技術者としてのコミュニケーション力
5. 国際協働を支える科学技術者としての国際感覚
6. 国際インターンシップなどの国際経験による実践力の基礎

教育内容（学科HP，学習案内で公表予定）

本学科では，上記の能力を身につけるため，次のような特徴を有する教育を実施します。

A) 工学を俯瞰的に理解するための教育（修得能力 1）

数学，力学，電磁気学，熱力学，流体力学，物理化学，システム工学等，工学の基幹概念を俯瞰的に理解できるように，講義・演習・実験を組み合わせた教育を行う。

B) 既存の学問分野にとらわれない問題解決力を修得するための教育（修得能力 2, 3）

問題解決のために必要となる，物質の分析，物理量の計測，情報の分析と解析，計画やデザイン能力，社会科学を身につけるために，講義・演習を組み合わせた教育を行う。

C) 科学技術者として国際感覚やマネジメント能力を修得するための教育（修得能力 3, 5）

単なる社会常識としての国際感覚ではない科学技術者の立場からの国際感覚や，プロジェクトのマネジメント能力を身につけるために，工学基幹概念，問題解決力，コミュニケーション力，およびその関連を重視した講義による教育を行う。

D) 科学技術者として優れたコミュニケーション能力を養うための教育（修得能力 4, 5）

科学技術者が，国際社会，地域社会で活躍するために必要となる，円滑なコミュニケーションする力を養うために，講義・演習を組み合わせた教育を行う。

E) 日本人学生および外国人留学生の混在教育（修得能力 5）

日本人学生と外国人留学生の定員を同数とすることによって，日常から国際的な雰囲気の中で学ぶことが可能になり，自然に国際的感覚を高めることができる混在教育を行う。

F) グローバルエンジニアとして必須の国際的実践力を養うための教育（修得能力 5, 6）

A)～E)までの教育の集大成として，国際舞台での優れた実践力を養うために，インターンシップ・フィールドワークおよび卒業研究で，具体的な問題に対して科学技術者として実践を試みる教育を行う。

学位の授与方針（学習案内で公表予定）

本学科を卒業するためには，つぎの要件を満たしていなければならない。

- (1) 付表中の科目のうち，基礎専門科目を 38 単位以上取得していること。
- (2) 付表中の科目のうち，理工系広域科目を 20 単位以上取得していること。
- (3) 付表中の科目のうち，Lゼミ科目を 2 単位以上取得していること。
- (4) 付表中の科目のうち，学士論文研究を 8 単位取得していること。
- (5) 合計 128 単位以上を取得していること。（理工系基礎科目に関して，卒業に必要な単位数は 16 単位であるが，20 単位まで卒業に必要な総単位数に算入できる。）